

企画セッション

◆IP ランドスケープをアップデートする◆

【概要】

2017年4月の知財人材スキル標準 (version2.0) により、IP ランドスケープという概念が日本に導入され5年が経過した。2021年6月のコーポレートガバナンス・コード改定によって、知的財産への投資について積極的な情報発信・開示が求められるようになったこともあり、IP ランドスケープへ対する期待は高まっている。

2021年4月に特許庁から公表された「経営戦略・事業戦略に資する知財情報分析に関する調査研究」において、IP ランドスケープとは「経営情報・事業情報と知財情報を組み合わせて、その結果を経営層・事業部門と共有すること」と定義されたが、IP ランドスケープについてはいまだ人によって理解が異なっているのが現状である。

本セッションでは、IP ランドスケープに従事している企業実務家、コンサルタントといった様々な立場のパネリストにより以下のような事例を共有し、IP ランドスケープに対する理解を改めて再定義した上で、組織において知財情報活用を普及・促進するために、企業における知財部門と知財以外の部門のあり方についてディスカッションを行う。

- － IP ランドスケープの定義とステージ
- － 企業における IP ランドスケープ・知財情報分析の取り組み
- － IP ランドスケープを普及・促進するための組織・コミュニケーションの在り方

企画セッション

◆IP ランドスケープをアップデートする◆

【講演者】

モデレーター

近藤 泰祐 (一般財団法人知的財産研究教育財団 事業部長)

1996年大手通信教育企業に入社。2003年より、知的財産教育協会の設立、民間検定である知的財産検定の創設に参画。副事務局長、事務局長と歴任し、2008年の国家検定(知的財産管理技能検定)への移行に携わる。国家検定への移行後は、現職として、検定試験の普及・運営、知的財産管理技能士会の運営、知的財産アナリスト認定講座等の人材育成事業を担当。

パネリスト (50音順) :

荒木 充 (株式会社ブリヂストン 知的財産部門 部門長)

生まれてからずっとタイヤが大好きで、入社駆け出しから20年間はタイヤ設計に従事。欧米中で計8年の海外駐在を経験。タイヤ設計部長、開発企画管理部長、品質保証本部長を経て現職。IPランドスケープ開発や事業貢献型の知財ミックス設計コンセプトを柱に、「モノ→コト→DX」で進化するソリューション事業に貢献できる知財機能変革に取り組む。小動物型チームマネジメントを志向。

伊藤 竜一 (株式会社ユーザベース SPEEDA 事業執行役員 技術領域事業 CEO)

2007年名古屋大学大学院マテリアル理工学専攻を修了後、リクルートに入社。技術者の就転職支援・製造業の組織課題解決に従事した後、2016年ユーザベースに参画。SPEEDAを活用した経営企画部門向けの意思決定支援活動からIPランドスケープの潮流に着眼。経営・事業と技術・知財戦略の一体化に貢献すべく、SPEEDA上に「特許動向・論文動向・研究者情報・科研費動向」という技術データ新機能開発を主導。

唐川 勝吉 (株式会社リコー プロフェッショナルサービス部 知的財産センター 知的財産戦略室 室長)

株式会社リコー入社後、知財部門に配属され、複合機・プリンタの特許出願、権利化を担当。全社知財方針・戦略業務を担当した後、経営企画部門で新規事業立ち上げに従事。知財部門に戻り、全社知財方針・戦略業務をマネジメントするとともに情報解析業務を立ち上げる。2022年4月より現職。

野崎 篤志 (株式会社イーパテント 代表取締役社長/知財情報コンサルタント®)

慶応義塾大学院総合デザイン工学専攻修了後、日本技術貿易株式会社入社。外資系特許調査・分析企業ランドン IP日本オフィス立ち上げを経て、2017年5月に知財情報コンサルティングの株式会社イーパテントを設立し、代表取締役社長に就任。KIT 虎ノ門大学院および大阪工業大学知財専門職大学院客員教授。著書に『調べるチカラ』、『特許情報分析とパテントマップ作成入門 改訂版』などがある。平成30年度特許情報普及活動功労者表彰・特許庁長官賞【活用普及功労者】受賞。